

アウトドア向け食器のデザイン開発

長谷川恵子 矢野 強 今西千恵子

Design of Tableware for Outdoor Leijour

Keiko HASEGAWA, Tsuyoshi YANO and Chieko IMANISHI

アウトドアレジャーにおける食器のニーズに着目し、ファミリー向けオートキャンプ食器のデザイン開発を行った。オートキャンプ用食器は、材質や機能面の自由度が高く、食シーンの演出に適した雰囲気や、色、形の個性が重視されることから、開発方向を「情緒性や雰囲気豊かなアウトドア食器」「野外での実用性を備えた陶磁器製品」とし、テーマを「自然との一体感や遊び心のある食卓の演出」とした。また、具体的なデザイン仕様として、収納・携帯しやすく操作性のよい形状、アウトドアらしい楽しいモチーフや加飾、「遊び」の要素、鮮やかな色彩等を設定した。これに沿って、皿、ボウル、カップ等、使用頻度が高く汎用性のある飲食物器、カトラリー類、カトラリーレストなどの演出性の高い食卓小物についてデザインを展開すると共に、ファミリー向けのセット構成、バスケットへのパッケージング、収納用ホルダー等の付属品を検討し、バスケットに収納するキャンプ食器セットをデザインし、試作した。

1. はじめに

近年、週休二日制が広く定着し、余暇時間が大幅に増大した。同時に、人々の生活意識も、生活のゆとり、豊かさへの志向を深め、余暇を、家族と共有する時間、また自然と触れ合う時間として積極的に活用する傾向が強まっている。

これらを背景に参加が増えている余暇活動としてオートキャンプなどのアウトドアレジャーがある。中でも特に、RV車ブームを背景に、オートキャンプが家族やグループ単位の余暇活動として若い世代に急激に普及した。

余暇としてアウトドアライフが大衆化したことにより、関連施設の整備が進む一方で、参加者サイドではアウトドアライフの快適化や活動の充実への志向が強くなっている。食シーンにおいても、調理方法やメニューが多様化する一方、食器に対して、アウトドアの食事に相応しい雰囲気や色、形が、求められるようになり、陶磁器製品など、加飾が多様で情緒性に優れた素材の活用が期待されている。本研究では、オートキャンプ用食器のデザイン開発を行った。開発に当たっては、使用シーンを明らかにし、他素材製品や一般家庭用食器との差別化、使用シーンにおける実用性を検討し、陶磁器の持ち味を活かした新規性のある製品デザインを目指した。

2. 調査

2.1 調査方法

製品開発の方向を明確にするため、アウトドア食器の動向を調査した。東京都内の大手アウトドアショップ、スポー

ツ用品店の店頭に見られるアウトドア食器の種類、材質、商品構成を調査し、それらの食器を使用ジャンルによって分類し、製品の傾向、特徴等を比較した。調査先を表1に示す。同時にオートキャンプの食シーンを明らかにするため、調査先店舗においてヒヤリングを行うと共に、統計資料、アウトドア関係の出版物から参加状況、活動スタイルについての情報収集を行った。

2.2 調査結果

2.2.1 アウトドアの食器の傾向

アウトドアレジャーのジャンルと食シーン、対応する食器の種類と特徴を表2に示す。また、それらの食器の材質を表3に示す。

調査の結果、アウトドア用として販売されている食器は、日帰り行楽を想定した樹脂製の簡易食器や使い捨て食器類、また、登山やバックパッキングなどにおける簡易自炊用の携帯用特殊食器類が主流であり、食器としての使い心地や味わいよりも簡便さ、軽さ、コンパクト性、また、野外の特殊環境における機能性を重視した製品が多いことが判

表1 調査表

店舗名	所在地
秀山荘 MAUI	東京都豊島区南池袋
S. R. C 池袋店	東京都豊島区南池袋
さかいやスポーツ	東京都千代田区神田
I C I 石井スポーツ	東京都新宿区西新宿
カモシカスポーツ	東京都新宿区高田馬場

表2 アウトドアの食シーンと食器

	ジャンル	食シーン	食器	特徴
一般性 ↑ ↓ 専門性	野外散歩、 ピクニック、ハイキング	戸外の喫茶 弁当（昼食）	簡易食器セット 使い捨て食器	軽量 手軽
	B B Qパーティー キャンプ、オートキャンプ	フィールドで 調理・飲食	キャンピング食器	素材、デザイン重視
	釣り、カヌーイング 登山、バックパッキング	簡易自炊	クッカー、コッヘル シェラカップ類	特殊、軽量、コンパクト 機能・性能重視

表3 アウトドア用食器の材質

食器種類	使い捨て食器	簡易食器	キャンピング食器	携帯用特殊食器
材 質	紙、アルミニウム	ポリプロピレン	ポリプロピレン	ステンレス
	スチロール樹脂	アルミニウム	ポリカーボネート	チタニウム
	発泡スチロール樹脂	ステンレス	メラミン、ほうろう 強化ガラス、ステンレス	アルミニウム

た。それらの材質は金属や樹脂などが多く、色や形状のバリエーションが乏しい現状にある。しかし、最近ではオートキャンプの食器ニーズを反映した目新しい製品が普及しつつある。それらの傾向としては、木製品、強化ガラス、ほうろう製品などの使用素材の拡大、グループ使用を想定したセット構成、色やワンポイントによるデザインの個性化、パッケージによる高付加価値化などがあげられる。

2.2.2 オートキャンプの参加傾向

オートキャンプへの参加形態は元来グループ参加が一般的だが、近年家族での参加が増加している。参加動機としては、家族や身近な人々との交流が最も多く、次いで、自然に親しむ、リフレッシュや休養などが多い。また、余暇活動の参加動向の調査¹⁾によると、最近では男女を問わず20才台、30才台の若い世代の参加志向が高く、それらの年代においては潜在需要も極めて高いのが特徴である。

2.2.3 オートキャンプの食シーンと食器ニーズ

オートキャンプは生活場面を自然のなかに移動し、衣食住をトータルに楽しむレジャーである。自動車の利用により、装備の運搬が容易になり、活動を快適化するための様々な装備が搬入される。食シーンにおいても、ツーバーナーコンロ、フォールディングテーブル、チェア、調理用具などが普及する一方、メニューも拡大し、「食」関連の充実が進んでいる。その食シーンは団欒、親睦の場としての意味合いが強く、食器は食べるための道具であると同時に食事の場面を楽しく演出するための重要な要素である。そのため食器に対しても、盛り付けの美しさ、雰囲気、色や形の個性、使い心地についてのニーズが高い。その一方、軽量化、コンパクト性、耐久性など、運搬や使用に伴う機能、性能に関する条件は他のアウトドアジャンルの食器と比較して緩やかである。

3. 開発コンセプト

調査結果を踏まえ、デザイン開発のターゲットを今後も参加人口の増加が見込まれるヤングファミリーに絞り、開発シーンを、ファミリーオートキャンプの食の団欒とした。

また、陶磁器製アウトドア食器としてのオリジナリティや新規性を打ち出すため、デザイン開発の方向性と製品の位置付けを、性能、機能、情緒性の3つの属性から検討した。樹脂や金属製の野外用食器は、野外の特殊な使用条件に耐える高い機能性や性能を備えているが、情緒性や、使用感は低い。一方、一般家庭用の陶磁器食器は雰囲気、味わいなど情緒性が豊かである半面、食器の性能や機能による利便さはほど重視されない。そこで、金属、樹脂製の競合品や家庭用食器と差別化する観点から、開発製品を、「野外での使用に必要な性能や機能を備えた陶磁器製品」、「加飾が豊富で情緒性や演出性の豊かなアウトドア食器」と位置づけた。各食器の特性比較による開発製品の位置付けを図1に示す。また、これらの方向性を実現するために必要となるデザイン要素を「野外仕様」として設定した。その内容を表4に示す。

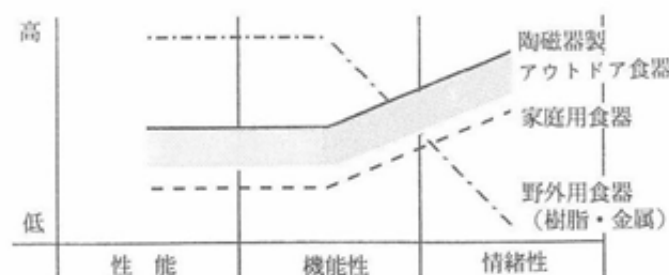


図1 開発製品の位置づけ

表4 デザイン要素(野外仕様)

属性	デザイン要素
機能性	収納性、携帯性、操作性の良い形状
性能	強度(パッケージングによる補完)、安定性
情緒・演出性	自然のモチーフ・加飾、引き立つ色彩 「遊び」や「楽しさ」のある形状、加飾

これらの方向に沿って開発テーマを「自然との一体感や遊び心のある楽しい食卓の演出」、サブテーマを「バスケット一つに収納できる食器セット」「家庭でも楽しめるアウトドア食器」とした。

4. デザインの展開

開発コンセプトに沿って、開発アイテムを設定し、アイデアの展開を行った。アイテムとしては、アウトドアの広いメニューに対応する汎用性のある器種として、深皿、皿、ボウル、カップを、また食卓を演出する周辺小物類としてカトラリー類、カトラリーレストを選定した。オートキャンプの定番メニューと対応する食器アイテムを表5に示す。各アイテムのサイズについては、該当する市販品のサイズの平均値を目安とした。

また、アイデアの展開においては、「携帯・収納しやすい」、「取り扱いやすい」などの条件を満たす方法として、穴やハンドルなどを利用した食器の固定や、持ち易さ、スタッキングの良い形状を工夫し、また、楽しさや遊びなどの情緒性を高め、アウトドアらしさを演出する点から、自然の中の小動物をモチーフとした形状や加飾、自然の中で引き立つ色彩、付属品のセットなどを工夫した。これらのアイデアを整理して、具体的なデザインを展開した。

アイデアスケッチの中から試作するアイテムを選定し、設計を行った。設計の段階で、具体的な成形方法、加飾方法を決定し、試作に向けて細部のデザインを詰めると共に、セットとしてのバランスや収納方法、付属品の取り付け方法を具体的に検討した。

5. 試作

バスケットに収納するキャンプ食器セットを試作した。セット構成は、皿、ボウル、深皿、カップ、カトラリー、カトラリーレスト、焼き串の7アイテムである。写真1は3人分のセットをバスケットに収納した状態である。各アイテムの概要を次に示す。

ハンディプレート、ハンディボウル

毛針を追う魚のレリーフを施したボウルとディナープレートである。リムを広くし、その一部をハンドル状に突出させ、取り扱いやすい形状とした。(写真2、3)

フリーボウル

収納や携帯性がよく、食卓の演出に適したシンプルな形状の深皿。リムの左右の穴に、カトラリーレストや金属製

表5 食器アイテムとメニュー

アイテム(サイズ目安)	対応メニュー
深皿(φ200mm×40mm)	シチュー、煮込み料理、麺類
皿(φ200mm×30mm)	カレー、スパゲティ、焼きそば、パエリア
ボール(φ150mm×35mm)	ご飯類、サラダ、デザート
カップ	飲物(ジュース、コーヒー、お茶等)

の鉢、皮紐などをセットし、遊び心ある使い方が楽しめる。(写真4) また、穴を利用して食器を収納する携帯用ホルダーを付属した。その底板はカッティングボードとして使用できる。(写真5)

スタッキングカップ

持ちやすく、スタッキングの良いカップ。ハンドルを鳥の形にし、積み重ねると鳥が縦方向に並ぶ、楽しいデザインとした。(写真6)

カトラリーレスト

小鳥の形をしたカトラリーレスト。食卓を演出するアクセサリとしてデザインした。胴部の穴に棒を通してスタッキングする。(写真7)

カトラリー、焼き串

カワセミ、魚、兎など、野生の小動物の形をしたハンドルをデザインした。持ちやすさを考慮し、やや太めの形状とした。(写真8、9)

これらの試作品の作製にあたっては、当産地の素地、生産技術を活用した。試作品の使用素地、成形方法、加飾、焼成方法、サイズを表6に示す。

試作した飲食器セットを実際にオートキャンプシーンで使用し、移動中の破損の有無、操作性、演出性など、野外での実用性を確認した。その概要を次に示す。

試作品を他のキャンプ装備と共に車に積んでキャンプサ



写真1 キャンピング食器



写真2 ハンディプレート

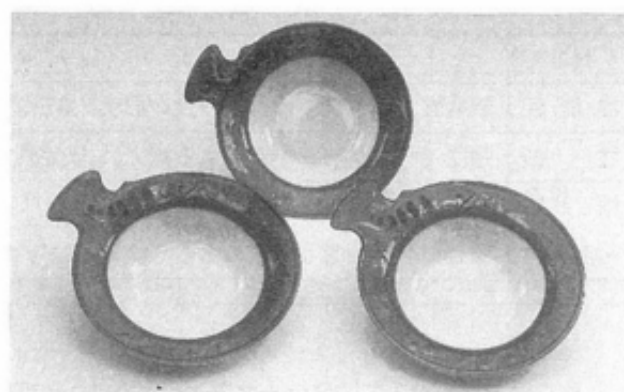


写真3 ハンディボウル



写真4 フリーボウル

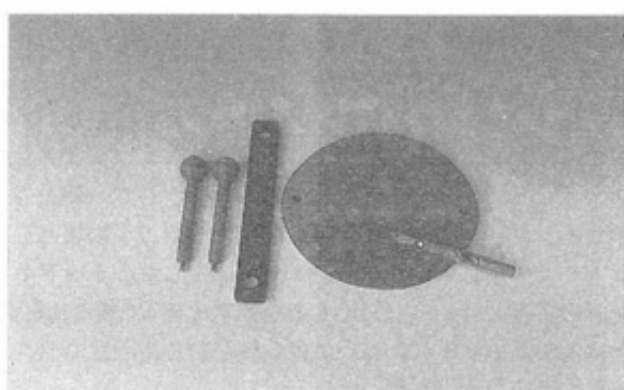


写真5 携帯用ホルダー (分解状態)



写真6 スタッキングカップ

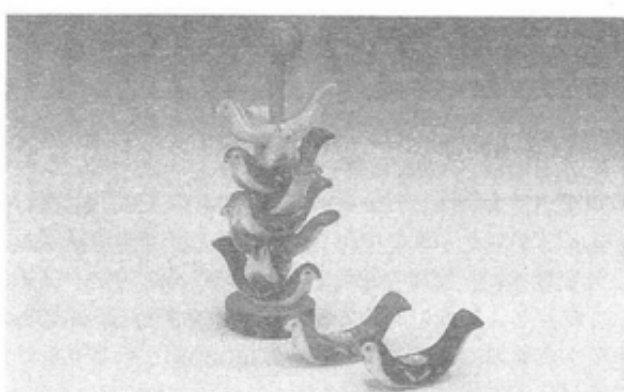


写真7 カトラリーレスト

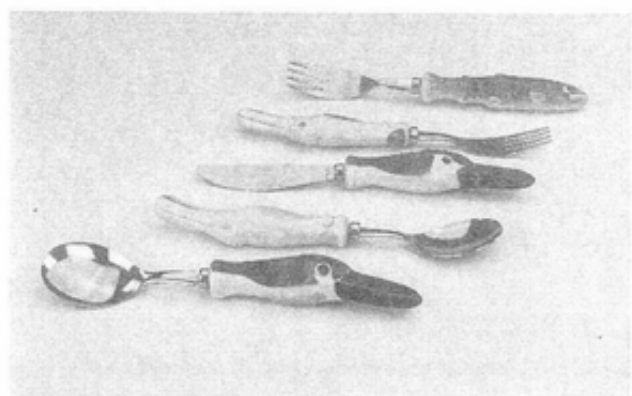


写真8 カトラリー

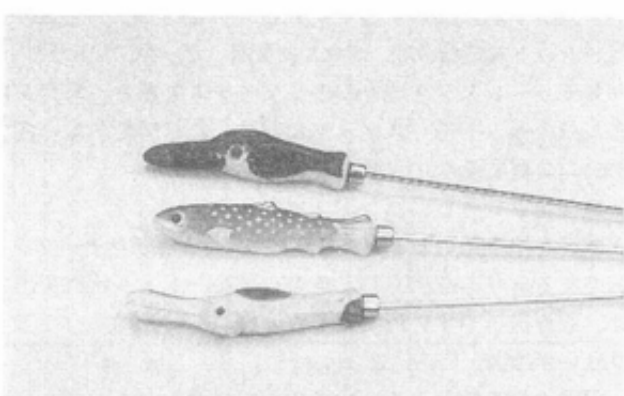


写真9 焼き串

表6 試作品データ

アイテム	素地	成形方法	加飾方法・釉薬	焼成方法(温度)	サイズ(mm)
ハンディプレート	磁器	圧力鋳込	下絵(吹き、染付)・透明釉	還元焼成(1280℃)	240×210×40
ハンディボウル	"	"	"	"	185×160×35
フリーボウル	軽量磁器	"	"	"	230×200×50
スタッキングカップ	"	圧力鋳込・排泥鋳込	下絵(染付)、上絵・透明釉	"	118× 88×66
カトラリーレスト	磁器	排泥鋳込	下絵、上絵・透明釉	"	75× 22×30
カトラリー等ハンドル	"	"	下絵(吹き、染付)、上絵・透明釉	"	120× 28×20



写真10 使用状況

イトに移動し、ランチ、ディナーを想定した定番メニューを盛り付け、フォールディングテーブル上で使用した。移動用パッケージとして幅420mm奥行き310mm、高さ170mmの竹製バスケットを使用し、食器類の間に緩衝材を挟んで重ねた後、ハンドル部分や穴を利用して両面マジックテープで固定し収納した。ホルダーのあるものはホルダーに収納した。緩衝材として、120mm角、2mm厚のゴムウレタン製シートと、バスケットの中敷きとして、900mm角の綿布製クロス1枚を使用した。

使用したランチメニューはパン、シチュー、オレンジジュース、ディナーメニューはカレーライス、サラダ、ウインナーの串焼き、デザート、コーヒーである。食器の使用状況を写真10に示す。

フィールドでの使用の結果は次のとおりであり、試作品の実用性は良好であった。

- (1) 食器同士の固定により、少量の緩衝材の使用で、移動や運搬時の破損を防ぐことができた。
- (2) キャンプメニューに適切なアイテム、サイズであった。
- (3) カップ、皿、ボールのハンドリング、使用感は良好であった。
- (4) 料理が食器に映えと共に、小物類がアクセントとなり、食卓が華やかで楽しいものとなった。
- (5) 湯に浸し、紙等で拭くことにより簡単に汚れを取り除くことができた。

文 献

- 1) (財) 余暇開発センター編, “レジャー白書’96”, (財) 余暇開発センター (1996), pp.16-52